

【主な展示資料】



伊勢物語絵巻 江戸時代 斎宮歴史博物館蔵

『伊勢物語』の本文と63場面の挿絵からなる絵巻。

狩の使（かりのつかい）として斎宮に滞在中の男のもとに、夜、斎王が忍んでやってくる。



伊勢物語手鑑 江戸時代 名古屋市博物館蔵

『伊勢物語』から47首の和歌を書いた色紙と、対応する章段の絵色紙からなる手鑑。

前掲「伊勢物語絵巻」と同じく「狩の使」場面。



源氏物語 葵絵巻 卷三 江戸時代 京都国立博物館蔵

「幻の源氏物語絵巻」と呼ばれて近年注目を集めている「盛安本源氏物語絵巻」の葵の巻。六条御息所（ろくじょうのみやすどころ）は、髪に染みついた芥子（けし）の匂いから、自らが生霊となり光源氏の正妻葵上（あおいのうえ）にとりついたことを悟る。

匂いを取り去ろうと御息所が髪を洗う場面。



源氏物語画帖 江戸時代 個人蔵

第17帖「絵合（えあわせ）」より、藤壺中宮（ふじつぼのちゅうぐう）の御前で女房たちが物語絵の優劣を競う場面。女房たちが物語を論評している。



源氏物語図色紙 江戸時代 堺市博物館蔵

第10帖「賢木（さかき）」より、娘の斎王とともに野宮に滞在中の六条御息所を光源氏が訪れる場面。
光源氏が榊（さかき）の枝を御簾の中に差し入れている。



春秋草花図下絵三十六歌仙図色紙貼交屏風（部分） 江戸時代 斎宮歴史博物館蔵
三十六歌仙を描いた色紙を貼り交ぜた屏風のうち、斎宮女御（さいくうのにようご）の色紙部分。

几帳（きちょう）の背後、纏緞縁（うんげんべり）の畳の上に座した斎宮女御を描く。

三十六歌仙は、平安時代中期の貴族、藤原公任（ふじわらのきんとう）が選んだ
三十六人の優れた歌人のこと。